

と聞いていたが、今日中に茨城の家に帰るため、ゆっくり出来ない、ここで校歌を口ずさみ、亡くなられた仲間に、黙祷し、別れを告げた。

ここ頂上で、自分が当時倒れた所に、平たい岩があり、助かったが、未だ命の恩人はそこにあるのが、嬉しかった。又落雷の後、上高地側の岩場の影で、神谷君としゃがんで雨が止むのを待とうとしていたのを思いだした。当時どうなっているか、後ろを見に行った時、仲間が怪我をして動けなくなっていると話したことが記憶に残っているが、誰と話をしたか覚えていない。

当時、独標の下りで、怪我をしている先生を見て、山荘へ救助を要請に行かなければと、藤森さんと、下山した。泣きながら山荘まで走って降りたことを覚えているが、よく走って降りれたものだ。

今回も走れるかなと思い試してみたが、重たいリュックを担いでいたのと、バランス感覚が鈍くなっているせいか、2度ほど転んでしまい。左肩を打ち、上高地への下山中に、左手で支えられないほど痛く、大変だった。

下山中、山荘近くで、追悼登山に参加する日帰り組と出会った。こんなにも沢山参加するんだと驚きました。

山荘で少し休み、下山し上高地に着いたのは、12時前で、まるで遭難当時のように、ちょうど雨が降り出し、雷鳴も聞こえてきた。松本14:40分発のあずさ22号に乗り、自宅に着いたのは19:00になっていた。1泊2日の強行追悼登山でした。

これまで、死にそうになった時が何回かあったが、仲間の分まで生きなければいけないと常に思い、励みにしてきました。

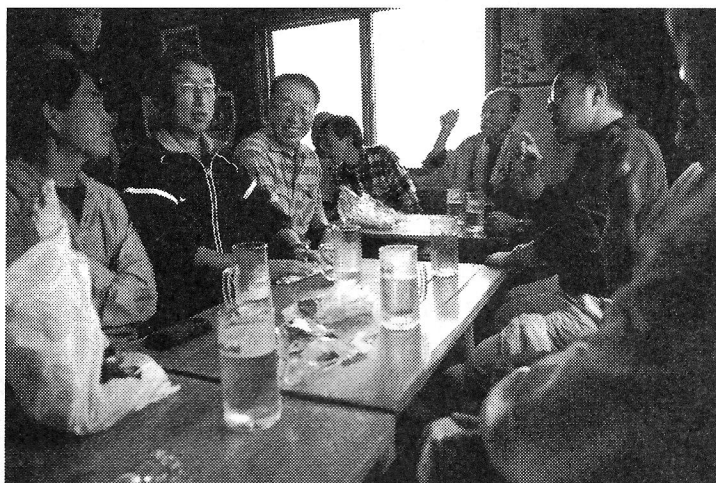
また、あの時伝令に西穂山荘に走ってからは、今までずっと走り続けてきました。

伝令に走った時は、まさかあんな悲惨な事故になっていとは想像も出来ませんでした。

しかも再度救助に向かい、独標の頂上で心臓マッサージ、人工呼吸などずっと続けていたが、ついに戻ってきませんでした。私にとってはとてもショックでした。

このショックは何時までも忘れられないが、35年ぶりに追悼登山に行くことができほっとします。今後も、もし機会があればまた行きたい。

亡くなられた仲間達、安らかに眠って下さい。



Baton Rouge, Louisiana, USA にて 8月30日、2009年